

## 1

次のそれぞれの文の——線部の、漢字は読み方をひらがなで、カタカナは漢字で書いて答えなさい。

- (1) 細かい部品をまとめる。
- (2) むだな作業を省く。
- (3) てきの動きを察知する。
- (4) あの人は挙動があやしい。
- (5) シズかに勉強する。
- (6) マトハズレな意見。
- (7) カモツセンが港につく。
- (8) 湖のシュウヘンを歩く。

## 2

次のそれぞれの問いに答えなさい。

- (1) 次の①～④の組の——線部の漢字と□の漢字とが反対の意味と  
うしになるように、□に入るふさわしい漢字一字を書いて答えな  
さい。
  - ① この海はとても深い。  
この海はとても□い。
  - ② 年始に親せきが集まって食事をする。  
年□に親せきが集まって食事をする。
  - ③ 年上の選手に勝つ。  
年上の選手に□れる。
  - ④ 父と母は和風の建築が好きだ。  
父と母は□風の建築が好きだ。
- (2) 次の①～⑥の——線部のことばを、漢字で書いて答えなさい。
  - ① かれが泣くとはイガイだった。
  - ② 関係者イガイは立ち入り禁止。
  - ③ 先生からシメイされて答える。
  - ④ 教師としてのシメイをはたす。
  - ⑤ 夜がアける。
  - ⑥ 席をアける。

## 3

次のそれぞれの問いに答えなさい。

(1) 次の①～③の文の□に入るふさわしいことばを、それぞれあとから一つずつ選び、記号で答えなさい。(同じものは二度選べません。)

① □ イカ墨すみのような黒いシミが服についてしまった。

② □ 一回戦で負けるといふことはあるまい。

③ □ かがうそをついたのか、そこが重要だ。

ア たとえ    イ まるで    ウ なぜ    エ ぜひ  
オ もし    カ よもや    キ きつと

(2) 次の文の①～④には「の・は・を・へ・と」のいずれかが入ります。それぞれ最もふさわしいものを選び、書いて答えなさい。

(同じものは二度選べません。)

〈東京①大学を出た兄②地元③帰しゅうしょくってきて就職したが、ほどなくして大学時代の友だち④いっしょに会社を立ち上げた。〉

(3) 「見る」を、ていねいな言い方にするに「見ます」になります。これと同じように、次の①～④の文の——線部のことばを、ていねいな言い方にそれぞれ直して、書いて答えなさい。ただし、文末の句点てん(。 )は解答用紙に書いてはいけません。

① ぼくは毎朝ヨーグルトを食かべる。

② 家に帰ったら手をあらおう。

③ 今日の給食はカレーだった。

④ 昨日公園には行かなかった。

## 4

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

《風香は、父親の弟の仁ちゃんが営むキャベツ畑を一人でおどず  
れていて、畑仕事の手伝いをしています。仁ちゃんと、仁ちゃん  
の妻である穂波さんは、両親を事故で失った拓也という少年を引  
き取り、いっしょにくらしています。》

① 仁ちゃんの仕事はひと段落つくまで、風香は拓也といっしょにキ  
ャベツ畑にもどり、みんなにお茶を出していくことになった。昼まで  
の短い休憩時間だ。

カップにお茶をそそぎ、ドーナツといっしょにくばっていく。さと  
しさんもりゆうやさんも、ぐいぐいとお茶を飲みほすと、ごろりと畑  
の上で大の字になった。そのまま目をつぶり、口を半開きにして、グ  
ガツと軽くいびきの音を立てた。② 風香は、思わずわらいだしそうに  
なった。

「眠くもなるわよね。みんな、朝の三時から働きづめだから。」

穂波さんが、もうしわけなさそうにいった。

とつぜん、\* 重さんの携帯が音を立てた。

「仁、どうした？ なんだと？ わかった、今からおれが行く。自  
分でなんとかしようと思わないで、そのまま待っているよ。」

「仁さん、どうしたの？ なにかあったの？」

拓也が、心配そうに重さんの顔をうかがった。

「ああ、ちょっとしたトラブルだ。おれも\*トラクターで追いか  
けるから、先によすを見てきてくれ。」

重さんが立ちあがると同時に、穂波さんと拓也が車に走る。風香も  
あわてて、穂波さんの車に乗りこんだ。(ア)

穂波さんが車を飛ばす。拓也は助手席で、不安げに体を小さくぎみに  
ゆすっている。(イ)

(なんだろう、たいへんなことがおきたんじゃないよね。)

③ 風香も、胸のあたりでギョツと手をにぎりしめた。

\* エンバクをまいていた畑に着くと、畑の奥で、仁ちゃんのトラク  
ターがかたむいているのが見えた。穂波さんが、「あー」と大きな声  
をあげた。④ トラクターのそばの畑の上に、仁ちゃんがたおれている。

(ウ)

拓也が「仁さんー」とさげぶなり、車から飛びだした。前のめりに  
なり、畑の茶色い土の中をもがくように走っていく。穂波さんもすぐ  
あとを追いかける。(エ)

拓也が仁ちゃんのもとにかけよった。つづいて穂波さんと風香が  
けよると、仁ちゃんが、おどろいたようにがばつと体をおこした。

「あれ？ 重さんは？」

拓也は、声をふるわせながらいった。

「仁さん、けがは？ だいじょうぶなの？」

あつけにとられていた仁ちゃんは、やっと状況のみこめたとい  
うように、頭をかいた。

「うわ、おどろかせてごめん！ トラクターがかたむいて、身動き  
がとれなくなっちゃったんだ。重さんが来てくれるまでなにもでき  
ないし、畑にすわって待っていたら、ついうとうとしてしまって  
……。」

拓也の顔が、みるみる真っ赤にそまっていく。くちびるをぎゅっと  
結び、ぼろぼろと大粒の涙をこぼした。

「うわ、拓也、どうしたんだよ。」

5 仁ちゃんはあわてふためいた。拓也はじつとつむいたままだ。 45

(仁ちゃんのばか！ 拓也はめちやめちや心配したんだよ！)

そういうおうとした風香の肩かたに、穂波さんが手をおいて、小さくささやいた。

「だいじょうぶ。仁さんにもわかったわよ。だいじな人を二度とうしないたくないっていう、拓也の気持ち。」 50

仁ちゃんはおじやもじや頭をさげながら、汗あせのしみついたタオルで、何度も拓也の涙をぬぐった。

「ごめん、拓也、ごめん！」

拓也は、口をへの字に結んだまま、おさない子どものようにしゃくりあげている。 55

(仁ちゃん、拓也、なんだか、ほんとうの兄弟みたいだよ。)

風香の目からも、いつしか涙がぼろぼろこぼれていた。

そこへ、トラクターに乗った重さんがやってきた。かたむいたトラクターの状態じょうたいにすぐ目を走らせると、仁ちゃんを大きな声でし 60

「こら、仁！ こっちに来い！」

仁ちゃんは、まるで小さな子どものように、背せなか中を丸めて重さんの前に進んだ。

「ばかものめ！ ここの\*傾斜けいしゃはきついから、気をつけると何度も 65

いったらうー！ トラクターがひっくりかえらずにすんだのは、たま

たま運がよかったからだぞ。」

6 重さんの説教は、はなれて聞いている風香までびくりとするほど 70

きびしいものだ。

「仁さんも、せっかく来た風香ちゃんに、たいへんなどころを見ら

れちゃったわね。」

穂波さんはこまったようにほほえむと、きっぱりといった。

「でも、危険きけんとはとなりあわせだから、けつして気はぬけないのよ。」

風香にも、仕事のきびしさが※伝わってくる。

その一方で、7 拓也のすがたに気づいた風香は、ほんのりあたたかい気持ちになった。拓也が、重さんにしかられている仁ちゃんを、ト 75

ラクターのかげから心配そうにちらちらとのぞき見しているのだ。

(仁ちゃん、よかったね。拓也も、穂波さんも、重さんも、みんな、 80

ちよつぴりさびしいような、けれども、その何倍もしあわせな気持ち 80

がした。それと同時に、風香の中に、すなおな気持ちがあがっ

てくる。

……！)

重さんは、ひとしきり説教を終えると、かたむいたトラクターのむ 85

きすばやく確認かくにんした。仁ちゃんのトラクターと自分のトラクターを

ロープで結び、バランスを見ながら少しづつひっぱった。仁ちゃんの

トラクターの姿勢しせいを立てなおすと、さっさとキャベツ畑へもどって

った。

「やっぱり、重さんにはかなわないな。おれは、まだまだ修行しゆぎょうがた 90

りないよ！」

仁ちゃんも、気合いを入れなおすようにタオルを頭にきゅつとまく

と、トラクターのエンジンをかけた。エンバクまきの再開さいかいだ。

風香は、家にもどるために、拓也といっしょに穂波さんの車に乗り 90

こんだ。

(仁ちやうん、ファイト！)

風香は車の窓を開け、仁ちゃんのトラクターが走る力強い音に、心地よく耳をかたむけた。

〈堀米薫「金色のキャベツ」より〉

(注) 重さん||仁さんにとって、農業を教えてくださいました先生のような人。

トラクター||農業機械などを引くための自動車。  
エンバク||畑で作る麦の一種。

傾斜||かたむき。

(1) — 線①「仁ちゃんの仕事」とありますが、このとき仁ちゃんもやっていた仕事を表した最もふさわしいことばを、本文中から六字で書きぬいて答えなさい。

(2) — 線②「風香は、思わずわらいだしそうになった」とありますが、風香がわらいだしそうになった理由として最もふさわしいものを次から選び、記号で答えなさい。

ア さとしさんとりゅうやさんがドーナツを食べているとちゅうでねてしまったから。

イ さとしさんとりゅうやさんのいびきが聞いたことがないくらい大きかったから。

ウ さとしさんとりゅうやさんがお茶を飲みほすとすぐ畑の上にねころがっていびきを立てはじめたから。

エ さとしさんとりゅうやさんが二人だけでドーナツを食べてしまふほどおなかをすかせていたから。

(3) — 線③「風香も、胸のあたりでギュッと手をにぎりしめた」と

95

ありますが、このときの風香についての説明として最もふさわしいものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 重さんが風香たちのあとをついてくると聞いて、そこまで重大なトラブルではないとわかり安心してている。

イ トラブルに見まわれた仁ちゃんのことを心配で、仁ちゃんが無事であるようにと必死に祈っている。

ウ 穂波さんや拓也の深刻そうな様子を見て、仁ちゃんにただならぬことがあったのだと絶望している。

エ 仁ちゃんに何かあったら拓也がその悲しみで立ち直れなくなってしまうのではないかと不安になっている。

(4) — 線④「トラクターのそばの畑の上に、仁ちゃんがたおれている」とありますが、このときの仁ちゃんについて説明した次の文の□に入る最もふさわしいことばを、それぞれ本文中から、①は九字、②は四字で書きぬいて答えなさい。

〈重さんが来るまで□①いるつもりだったが、つい□②してねてしまっていた。〉

(5) — 線⑤「仁ちゃんはおわてふためいた」とありますが、仁ちゃんはおわてふためいたのですか。「くから。」という形で、二十字以内(句読点も字数に数えます)で書いて答えなさい。

(6) — 線⑥「重さんの説教は、はなれて聞いている風香までびくりとするほどきびしいものだ」とありますが、説教をされている仁ちゃんをたとえを用いて表したことを、本文中から六字で書きぬいて答えなさい。

(7) ※□に入る最もふさわしいことばを次から選び、記号で答えなさい。

ア どうとうと                   イ ひしひしと  
ウ そろそると                   エ くどくどと

(8) — 線⑦「拓也のすがたに気づいた風香は、ほんのりあたたかい気持ちになった」とありますが、このときの風香についての説明として最もふさわしいものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 重さんの説教がいつまで続くのか興味を持っていて拓也のすがたが子どもっぽくて、あきれている。

イ 拓也と仁ちゃんたちのおたがいを思いやる気持ちが伝わってきて、どこか気はすかしくなっている。

ウ 拓也にとつての仁ちゃんのような存在そんざいが自分にはいないということに気づいて、さびしさを感じている。

エ 説教を受けている仁ちゃんを心配する拓也を見て、二人の間にある家族のきずなを感じて、うれしくなっている。

(9) 本文中からは次の一文がぬけ落ちています。これを元にもどすのに最もふさわしい場所を本文中の(ア)〜(エ)から選び、記号で答えなさい。

「風香も、土に足をとられてよろけそうになりながら、必死に走った。」

(10) 本文の内容ないように合っているものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 穂波さんは、畑で働いている人たちにきびしい労働をさせていることに責任せきにんを感じていて、今回の仁ちゃんのトラブルもそのせいではないかと思ひ落ちこんでいる。

イ 仁ちゃんは、重さんにふだんから注意されていたことでトラブルを起こしたことを反省し、自分をもっと修行をしていかなければ

いけないと気持ちを新たにしている。

ウ 風香は、拓也の気持ちをわかっていない仁ちゃんに腹はらを立てて文句を言おうとしたが、穂波さんから止められて、自分が余計よけいな口をはさもうとしていたことを反省した。

エ 重さんは、トラブルを起こした仁ちゃんのことをとても心配していたが、気のゆるみを引きしめるために、わざと気持ちをおもしろして、仁ちゃんにきびしくせつした。

(これで問題は終わりです)

